

平成24年 8月31日

さくら通信

(9月号)

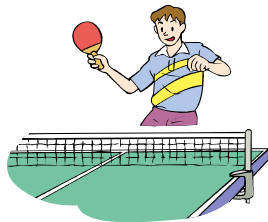
長崎県立佐世保中央高等学校定時制夜間部

長い夏休みも終わり、学校生活が再開しました。生活リズムを夜間部のリズムに戻し、新たな気持ちで登校してください。また、夏休み中には、身だしなみに乱れはありませんでしたか？高校生らしい服装や髪型となっているか、今一度自分自身でチェックをしてみましょう。

いよいよ3年生は進路実現の大切な時期になります。学校のキャッチフレーズ「押し開こう、力強く、希望の扉を」のごとく、今この時こそが最大のがんばりどころです。悔いの残らないよう万全の準備をして臨んでください。

【9月の主な行事】

- 9月 5日(水) ①併修+体育大会予行
6日(木) ①②+体育大会準備
7日(金) 体育大会
12日(水) 漢字テスト
13日(木) 考査時間割発表
16日(日) 就職試験開始
17日(月) 敬老の日
19日(水) 併修レポート締め切り
20日(木)～27日(木) 考査期間
22日(土) 秋分の日
23日(日) 全商情報処理検定



○前期校内球技大会

7月19日(木)に球技大会が行われました。男子はソフトボールの予定でしたが雨のため、急遽バレーボールに変更して実施され、女子は予定通り、バレーボールとバドミントンが実施されました。

《主な成績》

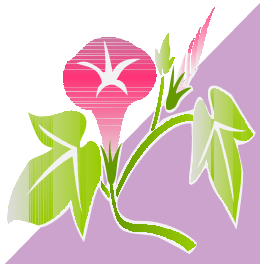
男子バレーボール	優勝	3 A	準優勝	1 C
女子バレーボール	優勝	2 A a	準優勝	2 A b
女子バドミントン	優勝	3 A	準優勝	1 A

○校内生活体験発表

7月18日(水)に生活体験発表大会が開催されました。出場した11名の発表は、どれもすがしく、若者らしさに満ちあふれたものでした。

＜最優秀賞＞ 2 C 坂本 葵 「アルバイトを通して」県大会出場

＜優秀賞＞	3 C	柿本 理帆	「続けることへの挑戦」県大会出場
	3 C	田嶋 亜純	「私の高校生活」
	1 A	牧野 彩華	「自分革命」
	2 A	伊藤 公司郎	「なりたい自分」
	3 A	谷添 志穂	「アルバイトで学んだこと」
	2 C	富永 朱音	「等身大消しゴム」
	3 A	野元 聡志	「特別な何か」
	2 A	吉田 勇太	「変わること」
	1 A	梶村 航一	「4年ぶりの高校生活。」
	1 C	永島 航貴	「目標を達成するために」



○平成24年度全国定時制通信制体育大会全国大会

＜柔道団体戦＞	1回戦	長崎選抜	0 対 5	広島選抜
＜柔道個人戦＞	2回戦	井上要一(本校)	対	岡山貴昭飾磨工業(兵庫)延長戦の末敗れる。
＜卓球男子団体＞	1回戦	本校	2 対 3	岐阜城南高校 (惜敗)
＜卓球男子個人＞	1回戦	不戦勝		
	2回戦	山下将志(本校)	3 対 0	永井(京都・朱雀高校)
	3回戦	山下将志(本校)	0 対 3	佐藤(東京・東海大付属望星)

○67年前の原爆投下の長崎の悲惨さを思いながら静聴しました。

8月9日 登校日に平和学習を行いました。筒井芽乃(故永井隆博士の次女)作の「娘よ ここが長崎です」を吉永小百合さんが朗読したCDを全校生徒が聞き、ホームルームでその感想文を書きました。

生徒感想文より

(3年女子)
私は、今日の平和学習で戦争の恐ろしさを改めて知った。毎年この時期に平和学習をしてきたが、そのたびに心が痛む。今日の朗読の主人公 芽乃さんの実体験を聞いて正直この年に生まれなくてよかったと思う。戦争で自分の家族や友達を亡くしたら、私は一生幸せになれないと思うからだ。戦争が終わって何十年もたつ今でも苦しんでいる人は沢山いる。小学生の頃「赤い背中の少年」という長崎原爆のドキュメンタリーを見たことがある。その方は、今でも背中に大きな傷を抱えて生きていた。きっとその人は、背中の傷を見るたび戦争を思い出すと思う。自分ならとても耐えきれないと思う。
私はまだ原爆資料館に行ったことがない。実は怖くてなかなかいけない。でも、沢山の大切なことが詰まっている場所だから、いつかは生きたいと思う。

(1年男子)
この平和学習を通して、改めて原爆の恐ろしさがわかりました。夜も落ち着いて寝れないなんて、自分には耐えられるかわからないと思います。今日の朗読を聞いて、今家族や友人がいることに本当に感謝しなければならないと思いました。当たり前のように飲めている水のありがたみがよくわかりました。これからも、今当たり前のように普通に生活できていることに感謝し、家族を大切に、生活していきたいと思います。このようなことがもう起こらないようになればな、と思います。そして、この原爆のことを絶対忘れないように生きていきたいです。